

令和4年1月5日

学び続ける教師コミュニティ

2022 春 教育実践福島ラウンドテーブル

毎年、教師が学び続けるためのアクティブ・ラーニングとして、新しい教員研修の形を目指しラウンドテーブルを継続開催しています。通常は、本学の講義棟で行っていましたが、今回も前回(2021 夏)同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、午前・午後ともオンライン(Zoom)で実施します。

午前は、基調講演になりますが、現在、学校現場で大きな課題となっているICTの活用に関して、高橋純氏(東京学芸大学・准教授)より、「学びの質を高める児童生徒一人一台端末の活用」というテーマでお話をいただきます。

午後は、ラウンドテーブルになりますが、校種、職種を超えて少人数のグループごとに、院生等の報告をもとに意見交換を行っていきます。これにより、実践上の成果だけでなく、それぞれが抱える問題等についても語り合い、そうしたなかで、問題解決のヒントを得たり、教育に対する新たな気づきや関心を高めていく機会になっています。

このラウンドテーブルは、本学大学院人間発達文化研究科教職実践専攻(教職大学院)の院生による研究報告の場であるとともに、県内外の教育関係者における「学び続ける教師コミュニティ」形成の場になっているといえます。

日時：2022(令和4)年2月19日(土)10:00~16:00

方法：オンライン(Zoom)開催

主催：福島大学大学院人間発達文化研究科

共催：福島県教育委員会

後援：福島県市町村教育委員会連絡協議会 ほか

詳細につきましては、別紙チラシをご参照ください。

【お問合せ先】

人間発達文化学類支援室

電話：024-548-8103 FAX：024-548-3181

メール：ningen@adb.fukushima-u.ac.jp

学び続ける教師コミュニティ

2022 春 教育実践福島ラウンドテーブル



国立大学法人

福島大学
Fukushima University

2022

2・19 (土)

ー10:00~16:00ー

オンライン(Zoom)開催



今日、福島県の教育には、「ふくしまの未来を創造する子どもたちの育成」が求められています。こうした中、教員を目指す学生や教職員には、地域と世界に視野を広げつつ、すべての子どもの成長や学習に目を向け、対話と省察を重ねながら、実践に裏打ちされた自らの教育理論を構築することが重要になります。

このため、福島大学大学院人間発達文化研究科では、福島県教育委員会との共催により、全県的な「教育実践福島ラウンドテーブル」を年2回開催し、院生の報告等をもとに教育関係者(教育委員会、管理職、一般教員、大学教員、保護者・市民等)と交流し、実践上の成果だけでなく悩み等を話し合い、県全体の教育力向上を図るとともに、「学び続ける教師コミュニティ」を創ってきました(写真:2019 夏ラウンドテーブル)。

今回は、これまで参加者の皆様からオンラインの良さとして、「遠方からの参加が可能」「移動時間を省略できる手軽さ」「コロナ感染防止」などのお話もあり、オンライン開催としました。初めての方でも自宅で気軽に参加できますので、多くの方の参加をお待ちしております。

主催 福島大学大学院人間発達文化研究科

共催 福島県教育委員会

後援 福島県市町村教育委員会連絡協議会 福島県都市教育長協議会 福島県町村教育長協議会 福島県小学校長会 福島県中学校長会 福島県高等学校長協会 福島県特別支援学校長会 福島県国公立幼稚園・こども園協議会 福島県私立幼稚園・認定こども園連合会 福島県私立中学高等学校協会 福島県公立学校退職校長会 福島県 PTA 連合会 福島大学人間発達文化学類同窓会

【午前の部】 全体 (事前に午前の部の会場 URL をお送りします。9:30 から開場しています。)

10:00~10:10 主催者挨拶 初澤 敏生(福島大学人間発達文化研究科長)

10:10~12:00 基調講演「学びの質を高める児童生徒一人一台端末の活用」

講師 高橋 純 先生(東京学芸大学教育学部・准教授)

【研究領域等】 教育学 教育方法学 教育の情報化に関する研究に従事
独立行政法人教職員支援機構客員フェロー 博士(工学)

【略歴等】

- 中央教育審議会教員養成部会・委員(2019~)
- 中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会・委員(2021~)
- 文部科学省「GIGA スクール構想に基づく1人1台端末の円滑な利活用に関する調査協力者会議」委員(2021~)
- 文部科学省「教育データの利活用に関する有識者会議」委員(2020~)を歴任
- 第17回日本教育工学会研究奨励賞受賞
- 日本教育工学会理事、日本教育工学協会副会長など

【主な著書】

- はじめての授業のデジタルトランスフォーメーション(東洋館出版)
- 1人1台タブレットではじめる小学校ICTの授業づくり超入門!(明治図書)
- 教育方法とカリキュラム・マネジメント(学文社)



【講演概要】

GIGA スクール構想では、クラウド技術の採用によって安価に児童生徒1人1台の整備が実現した。クラウド活用の特徴の一つである情報共有や協働活動のしやすさを生かすことがポイントとなる。協働的な活動など学びの質を高めることにつながる。一方で、クラウド活用は使ってみて初めて従来との違いがわかることも多い。そのための基礎的な取り組みも欠かせない。最初の一步の実践から、その発展までのポイントについて事例を踏まえてお伝えしたい。



12:00～13:00 昼食・休憩（参加者各自の計画で・・・）

【午後の部】グループごとに

（6人程度のグループに分かれます。事前に参加するグループの URL をお送りします。なお、終了はグループごとになります。）

13:00～16:00 ラウンドテーブル

「教育実践福島ラウンドテーブル」は、福島大学教職大学院生や県内外の国公立保育所・幼稚園・認定こども園、小・中・高等学校、特別支援学校、教育委員会等に勤める教職員、さらには、保護者や市民等が、それぞれの立場による実践や悩み等を交流する場を提供する「学びのコミュニティ」です。日々の教育活動や課題、悩み等について自由に語り合います。

今回は Zoom で少人数グループの会場に分かれ、教職大学院生の報告や参加者の実践等をもとに交流を深めます。

ラウンドテーブルの魅力

～ 参加された方々の感想：参加者アンケートから ～

○ 前回（2021 年夏8月開催）の参加者アンケート（回答数 87 人：回答率 65.4%）の概要をお知らせします。

① 4段階評価：「参加されていかがでしたか」については、参加して「大変良かった」80.5%、「良かった」19.5%となり、これまでと同様に8割を超える高い評価をいただきました。



② 基調講演について

● 赤堀先生には、特別の教科 道徳になった経緯とその理由を法的根拠から子供たちの姿まで具体的に分かりやすくお話しいただき、その後の学校における道徳教育の考え方や進め方などを理解する上でとても参考になりました。また、道徳教育の要としての道徳科の授業の進め方や評価、授業改善など、実際の授業場面を通してお話しいただいたことは、これからの授業改善に取り組む大切な視点と実践の意欲をいただいたように思いました。ありがとうございました。

● 道徳教育をより良いものにするためには、担任の先生が一人で行うのではなく、校長先生をはじめとした様々な先生方と情報共有し話し合いながら進めていくことが大切なのだと感じました。また、いじめのように、生徒の実態を把握し、それに寄り添った「生徒自身が自分のこととして捉え、考えられる授業」を行うことで、目標が明確化された授業を構成することができると学ぶことができました。

③ ラウンドテーブルについて

- 大学の先生や教育行政の先生、大学生など、普段話をする機会がない先生方と対話することができてよかったです。自分が気付いていなかった気づきを得られる大変貴重な時間でした。ありがとうございました。
- 午後のラウンドテーブルでは自分の研究テーマについてざっくばらんにご意見を頂くことができました。校種、教科が違う方からのご意見は新鮮で、気づかされることも多かったです。また、遠い地域から参加される方がいるのもオンラインならではの良さだと思いました。



報告者募集！（ミニレポート報告）

- 普段取り組んでいることや悩み、疑問など、グループ協議の中で実践報告として話題を提供して下さる方を募ります。報告資料は、ペーパー1枚程度の簡単なものでも結構です。報告資料の取り扱いについては、後日お知らせします。当日は、本学の院生24名も、これまでの学びの道のりを報告します。

◇ 参加申し込み方法 ◇

本学の人間発達文化学類 Web ページ (<http://hdc.educ.fukushima-u.ac.jp>) の「**2022春 教育実践福島ラウンドテーブル**」の申し込みフォームから、**2022年1月31日(月)までにお申し込みください。**

ご不明な点はお問い合わせ先にメールでお知らせください。QRコードから Web サイトにアクセスできます。

*** 今回はZoomによる開催となります。**

事前に参加方法についてお知らせしますので、**メールアドレスを必ず記載**願います。

安心して気軽にご参加ください。

【お問い合わせ先】 福島大学人間発達文化学類支援室

TEL 024-548-8103 FAX 024-548-3181 Mail ningen@adb.fukushima-u.ac.jp

